



“新登場” 事例に学ぶ 課題解決セミナー

…システムの事故・障害を防ぐシステム監査…
半日コース

情報システムの事故・障害で、企業や顧客が損失を被る事例が後を絶ちません。
システム監査の専門家が事故・障害の原因を解き明かし、有効な対策を示します。

事故・障害の原因は報道だけでは分かりません。対岸の火事ではないかも知れません。
リスクとコントロールの視点で分析して、皆様の課題解決に役立つ説明をします。

多様な事例を用いて幅広いニーズに対応します。
キャリアアップ、システム監査知識向上、システムの信頼性向上などにご活用下さい。

セミナーは
STEP1～4の順
に進行します



事故・障害	診断	評価															
<p>緊急点検の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> 重要インフラのシステム障害が相次いで発生していることを受け、早期経済復旧の観点から、情報システムの信頼性向上のため 重要インフラシステム^(注1)、及びそれに準ずる企業基幹システムを 最低18日ですべてアンケート調査を実施。 その結果、ユーザ企業28社から企業66社、合計133設備^(注2)の4 日本調査では、2009年度の売上高ベースで、情報サービス産業約 をカバー。 重要インフラシステムの事業分野別の設備数は以下の通り。 																	
課題	基準	監査人															
<p>GDPRに関する専門的な知識・経験の有無は、経営者による意識</p> <p>決(平成17年度)</p> <table border="1"> <tr> <td>条件</td> <td>3.0</td> <td>22.4</td> <td>35.9</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>あり</td> <td>7.5</td> <td>34.1</td> <td>36.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>なし</td> <td>4.0</td> <td>29.4</td> <td>40.4</td> <td></td> </tr> </table>	条件	3.0	22.4	35.9	35	あり	7.5	34.1	36.3		なし	4.0	29.4	40.4		<p>システム監査制度関連</p> <ul style="list-style-type: none"> システム監査基準(平成16年10月公表) システム監査基準(平成8年改訂版)【PDF形式】 システム監査企業台帳(平成21年度) システム監査企業台帳に関する規則(平成21年通商) <p>システム管理基準関連</p> <ul style="list-style-type: none"> システム管理基準(平成16年10月公表)【PDF形式】 システム管理基準(平成16年10月公表)【版説】【P】 	<p>14. 公認システム監査人*</p> <p>定義：システム監査技術者試験合格者について、実務経験を満たし、継続教育を義務付けて「公認システム監査人」(CSA)として認定する制度である。システム監査の実務経験を積む際は、「システム監査人補」(ASA)として認定され、両者ともに一定の継続教育を受けることを義務づけられる。</p> <p>解説：企業構造審議会の情報産業部会・情報人材対策小委員会、その中間報告(1999.8.1)で次の2点の指摘を行った。一つは「システム監査人がユーザの信頼を得るためには、単に知識等に留まるのみならず、実践的監査経験を積むことが重要である。その観点から、従来より実施しているシステム監査技術者試験に合格した上で、一定の有効な実務経験を積んだことを確認することによ</p>
条件	3.0	22.4	35.9	35													
あり	7.5	34.1	36.3														
なし	4.0	29.4	40.4														
<p>一つの事例を、講義中心(受講者も一部参加)で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ STEP1：事故・障害事例 ➢ STEP2：事例のリスク ➢ STEP3：リスクコントロール ➢ STEP4：システム監査による評価 																	

半日コース：短時間で全項目を学びます。

○お申し込みはインターネットから受付しております。
○お問い合わせはE-mail でお願ひします。

<http://www.saa-j.or.jp>
E-mail:semi2010@saa-jk.org